

表現力を鍛える

プレゼンテーションは顧客との真剣勝負の場であり、住まいづくりの始まりである。

今回は子どもが手元を離れたひとり暮らしの住まいである。年老いてからの将来への対応と、住まいの維持費を抑制するために、不必要な空間を削除した計画である。今後、高齢化にもなつて、ひとり暮らしのための住まいのニーズは増えてくると思われる(青木)。

第3回・・・H邸「長野県」

構造・規模：木造枠組壁工法
2階、延べ床面積：69・55㎡
家族構成：50歳代独身
施工：2003年10月～2004年3月
総事業費：1500万円

「施主の要望と建築条件」

蔵の街並みのある旧市街地。子どもたちが独立したあとの、独りの住まい計画である。

外部には施主用の車と来訪者用の車2台分の駐車スペース。南側に庭、東側に隣接する工場や駐車場からの視線・音の遮断対策。また、住まいの維持管理コストがかからない、将来、身体に不自由が生じた場合に使いやすいプランを希望された。

ライフサイクルコストを低減するため不要な空間を排除、実生活

の空間のみの計画とした。特にラッキングコストの低減に関しては、断熱・気密性能を確保し易い木造枠組壁工法(2×4工法)とし、断熱サッシトリプルガラスを採用して開口部の性能を上げた。

将来、身体に不自由が生じた場合の対応として、1階に寝室と水まわりを配置。寝室にはトイレを備えた洗面脱衣室と、浴室・ウォークインクローゼットを配置した。2階にはリビングとキッチン。開放感ある明るい空間の2階では、趣味の絵画を行えるようにした。

配置・平面図 着色を効果的に 使って表現

東側に駐車場とプレス工場が隣

接、北側道路の向かいにも繊維工場がある。建物を東側と北側に寄せ、南側と西側に騒音と視線を遮断する庭を確保した。内部空間と外部空間の中間領域として、ウッドデッキを南側に配置、駐車スペースを西側に確保した。

1階は寝室を中心とした空間。騒音と視線のある東・北側と寝室の間には、寝室から利用するトイレ併設の洗面脱衣室・浴室、ウォークインクローゼットを配置した。周囲の工場は平屋であるため、日常生活の中心となるリビング・キッチンを中心に計画し、開放感と明るさを確保した。

配置図兼1階平面図は、計画地内の建物内部空間以外を着色。計画区域内、内部空間、外部空間が明確に分かるようにしている。今回は道路後退部分があるので、その部分は利用できない空間ということがわかるよう着色していない。

プレゼンの心得 その3



青木和壽
(有)和建築設計事務所代表 / 長野県塩尻市
TEL : 0263-51-0318
http://www.kazu-design.co.jp

ポリユーム模型の効果

プレゼンテーション時に、私は現場で使用する硬質断熱材の端材を利用して縮尺1/100の建物形態を表現するポリユーム模型を作製。着色した配置図に張り付け提出している。

これは、外觀形態の5面(4外壁と屋根)が確認できるからである。形態表現にはパース図やコンピュータグラフィックスがあるが、決まったアングルや機械がな

＜計画書＞					
敷地面積	148.73㎡	44.52 坪	内訳		
建築面積	56.39㎡	17.00 坪	1階床面積	34.73㎡	10.5 坪
2階床面積	21.66㎡	6.50 坪	2階床面積	34.73㎡	10.5 坪
3階床面積	42.02㎡	12.73 坪	1階+2階床面積	69.46㎡	21.0 坪
1階+2階+3階	7.95㎡	2.31 坪	建築床面積	38.67㎡	11.69 坪
延べ床面積	99.21㎡	29.81 坪	延べ床面積	38.67㎡	11.69 坪
			敷地面積	148.73㎡	44.52 坪



配置・平面図
(1/100)
での表現



南側立面図 5=1/100



西側立面図 5=1/100

立面図(1/100)での表現

立面図

鉛筆のタッチを生かして伝える

総2階のプランニングによる直方体の単純な建物形態に変化を持たせるため、ガレージとバルコニーを計画した。

東側と北側は外部空間と遮断するため、必要な開口部だけを計画。南側と西側に大きな窓を計画した。

平面図同様、人間の動作や車などを明記。これにより、建物の外観ボリュームが分かる。

また、鉛筆の濃淡や影を書き入れることで、立体感を出している。平面図と異なり、鉛筆のタッチングによる雰囲気を生かしたいので、着色はしていない。

開口部の開き方など、図面記号の表示はしない。通風と採光が確保できることだけを明確にする。窓の開き方などを表記すれば、細かな説明が必要だが、そこでプレゼンテーションの時間を浪費することは避けたい。プレゼンで大事なのは、規模や全体のイメージを確認できることである。

着色を施すと着色面が浮き上がり、建物線の表記がはっきりできないと、図面全体がぼやけてしまう。建物の表記は0・1mmの水性ペンを使っているが、線を太くして明確にするのではない。色の濃淡と線のエッジをハッキリさせ、フリーハンドで描いている。

内部空間では、人の動作を明示することで、平面の空間の広さが分かるようにしている。

いと見えないので、施主が十分に確認できない部分が多い。また、同じ模型でもスチレンボードによって作製する方法があるが、割に手間と時間がかかる。

ポリウム模型に着色は施していない。あくまで形態のイメージを把握してもらうためのもので、素材や色調を示すものではないからである。

硬質断熱材のポリウム模型はカッターナイフで切れるので、その場で屋根や外壁を削ることも可能である。

私はこのポリウム模型を、計画概要から始まり、配置図・平面図、立面図、断面図の説明を行った後に、施主に見せている。そうすると、施主は計画内容を把握した上で、手にとってあらゆる角度から眺めることができる。

外構のフェンス・デッキや植栽も取り付けて、計画全体を表している。フェンスやデッキは模型用木材を利用し、植栽の木は山あじさい(サワアジサイ)を採取し乾燥させて使用している。

ポリウム模型は、手慣れれば半日程度で作成できる。また硬質断熱材をカットする機械は、画材店が販売している。

何を伝えたいのかを考え 効果的な表現手法を使う

断面図

高さや距離感を
つかんでもらおう

計画地内外の外部空間と内部空間の高さや距離、内部空間から見た塀や樹木などの高さ、開口部の

通風と採光の様子を確認できるように表現する。

平面図や立面図と同様、人間の動作やものを明記。内部空間のボリューム、高さをわかりやすくしている。また、1階および2階の床はフラットであることも確認で

きるようにしている。

H邸では、2階のリビング・キッチン天井が高く、開口部による開放感ある空間を把握できるようにした。

ボリューム模型

ボリュームを
手にとって見る

平面図の上に硬質断熱材加工のボリューム模型を設置し、建物の配置状況やボリュームを確認できるようにしている。植栽や塀・デッキ模型も設置し内外空間の説明ができるようにしている。



断面図(1/100)での表現

竣工写真

住宅のプランはプレゼンテーション内容で計画されたが、予算によりガレージおよびバルコニーは将来工事とした。



外壁は周辺の蔵づくりの街並みに溶け込むよう、モルタル塗りの上にスタッコ塗り



2階のリビング。明るさと解放感を確保することは、プレゼンテーション内容で計画したとおり

硬質断熱材を加工してつくるボリューム模型

